

美しい下田の海は 海を愛する人たちによって 守られています。



海を愛する人たちの ビーチクリーン活動

下田市には「自然」「歴史」「文化」「人の暮らし」に関連する貴重な資源が数多く存在します。その中で「下田を象徴」「下田らしさ」「下田の人々の誇り」「次世代への継承」に値するものを「下田まち遺産」と定義しています。

令和2年3月現在、154件を「下田まち遺産」として認定・登録し、その素晴らしさを世の中に広く知らしめたり、助成することによって建造物等の景観維持保存に取り組んだりしています。

その下田まち遺産の多くは「海」に関連するものです。広義的に見ても154件中、半数以上が海につながりがあり、下田市はあらゆる面（自然・歴史・文化・人の暮らし）で海からの恩恵を受けています。

下田には当たり前のようにそこにある海。いつもきれいな海は市民や観光客にとって憩いの場所となっています。実は多くの人々の努力や苦勞によって下田市の海は守られ、その美しい姿を保っています。

今回の特集ではどのような人々が海と向き合い、海岸美化活動などに取り組んでいるのかをお伝えします。

下田まち遺産認定 下田の海関連リスト

- 入田浜
- 多々戸浜
- 吉佐美大浜
- 小白浜
- 九十浜海水浴場
- 白浜大浜海岸
- 鍋田浜
- 白浜中央海岸
- 田牛海岸
- ひもの横丁
- 武ヶ浜波除と今村公勅功碑
- 外浦海岸
- 下田漁港金目鯛
- 稲田寺津なみ塚
- 天草ポン作り

※認定番号順に記載
※一部を紹介しています
※P9,10 参照

Case 1

地元サーファーが継続するビーチクリーン

強制しないことが大事。 月一回のビーチクリーン

約20年前、各地区の海で誰からともなく始まったビーチクリーン活動。サーファー達は海の中であつたり、砂浜であつたり、自然環境と向き合うことが多く、海中のゴミや砂浜のガラスなど、目につくものを片付けようという気持ちから自然発生的にこの活動は続けられています。

長続きしている理由は、活動を強制しないこと。そうすることによって気持ちが高くなり、いつでも参加できる雰囲気になっているそう。最近では地域の人たちと一緒に活動することも多くなってきているといいます。

今後、どのような形で若者(子ども)達にこの活動をつないでいくのか、次世代の担い手育成がカギ。継続していくことを第一にこの輪を広げていきたいですね。



入田浜でゴミを拾う参加者

Case 2

白浜好きが集まったビーチクリーン活動

誰でも参加できるボランティア。 年に一度のビーチクリーンが夏の始まり!

平成20年(2008)5月、砂が吹き飛ばされて石ころだらけになった白浜。「まるで黒浜だ」と全国ネットで連日報道されました。自然現象とはいえ、夏を目前に控えた白浜への風評被害に多くの観光関係者が悩んでいました。この石を片付けて出来るだけ本来の白浜の姿に戻したい、という一心で「白浜ビーチクリーン」を呼びかけたのが発起人の一人、青木まゆりさん。マイナスイメージを巻き返すためには、海を大切に思う人がたくさんいるという良い情報で再び注目を集めようと考えたのだそうです。日頃から地元の人や海を愛するサーファーたちが清掃活動を行っていましたが、組合や団体に加盟していない人や県外から訪れる方々からも、「ぜひ手伝いたい」という声があり、誰でも気軽に参加できるボランティアという形で始まりました。以降、背中を押してくれる仲間の協力もあって継続することとなり、今年で13回目。SNSで呼びかけ、多い時は100人ぐらいの参加者があるそうです。

最近は季節や場所を問わず少人数で集中的にゴミ拾いを行っていて、マイクロプラスチックなど小さな漂着物にも目を向けて、分別することで可視化にもなり、浜ごとの傾向やゴミの特徴もわかってきたそう。強制しないこと、浜掃除を義務だと思わない(思わせない)こと、やれる時にやるというスタンスで、今後も続けていきたいそうです。



多くの参加者たちで支えられている活動



石ころが多く打ち上げられた砂浜(活動開始当初)